

# 山形県連小会報

第167号  
 発行日 令和5年10月1日  
 発行者 山形県連合小学校長会  
 村上 ゆかり  
 山形市木の実町12-37  
 県教育会館(大手門パルス)

## 県連小 第2回理事会報告

### 学びに向かい 発信し つながる県連小 村上ゆかり会長 挨拶

夏休み中は、熱中症をはじめとした様々な事故や災害等のニュースのたびに、子どもたちの無事と安全を願い、どの学校におかれましても、2学期からの学校生活に向けて危機管理マニュアルの点検や地域・保護者との連携の確認などに取り組まれたことと思います。子どもたち、さらには教職員の命も預かるものとしての責任を再認識し、第1回の理事研修会の記録も、もう一度読み返したところです。

7月には東北連小研究協議会山形大会の運営及びご協力、誠にありがとうございました。皆様のおかげで、大会副主題の「人間力に満ちあふれ 社会や地域の持続的発展に貢献できる子どもを育てる学校経営の推進」を意識し、山形大会らしい運営とともに、校長の学びの場という意義を達成することができましたことに、心より感謝申し上げます。各地区校長会におかれましては、各分科会テーマに沿った研究を進めていただき、きめ細やかなご準備のもと、ご提示いただいたことで、東北の皆様と学び合う貴重な機会となりました。また、ご講演いただいたオリエンタルカーペット社長 渡辺博明氏のお話は、人材育成はもとより継往開来の心意気や郷土愛など、人間力についても学ぶところが多く、参加された方のアンケートにも大変充実したお話であったという声が多く寄せられていました。さらに、全連小の植村会長、小泉事務局長にもご臨席いただきましたが、東北の団結力と学びに向かう勢いを感じた、先生方の表情がとてもよかったという感想をいただき、嬉しく思ったところです。来年の研究協議会酒田鮑海大会のご準備も始まっていると伺っております。研究をはじめとした様々な成果を引き継いでいきたいと思ひます。

さて、今年度は東北連合小学校長会の会長を拝命し、常任理事として全国各地の会長さんとともに全連小の仕事に携わる機会をいただいています。この後報告させていただきますが、様々な会議や研修の場で話題の中心となっているのが、教員の確保と働き方改革です。これまで、教員の確保には「質の高い」という枕詞がつき、今年度よ

りそれぞれの教員の資質能力向上に向けた「新たな教師の学びの姿」を実現する研修制度が始まっているわけですが、全国どの都道府県においても、まず教員の量の確保が大きな課題になっていると感じます。もちろん、本県においても例外ではありません。この課題を解消するためには、処遇改善等、働き方改革の取組が大切であり、質の向上とともに両輪で進められていますが、教員の確保には、教職を目指す学生や若手教員への教員としての本質的な部分の継承と伝達が重要であるということ、自分が全連小の会議に参加して改めて実感しています。仕事の概要もわからず、全連小の会議に参加した私ですが、そこで「全国の小学校を元気にしよう」「県を超えたつながりを大切に、力を合わせて前進しよう」という委員の皆様熱意に心を動かされることが多くあるからです。「仕事」のとらえにはいくつかの段階があり、生活の糧を得るために働く仕事を「ライスワーク」、やりがいや面白さを感じる仕事を「ライクワーク」、人生を掛けてもいいと思える仕事を「ライフワーク」と呼ぶそうですが、ライフワークを極めていくと、多くの人に喜びを与え、社会に光をあてられるようになっていく、この仕事を「ライトワーク」と呼ぶそうです。今さらではありますが、教員一人一人が目の前の子どもたちの成長を実感し、同僚とともに学校をつくっていく喜びを味わうことのできるのが教師の仕事であること、この「教員としてのやりがい」を感じられるように努めることが校長の役目であると思ひます。

様々な危機管理をはじめ ICT 利活用や外部との関わりなど、私たち校長には「未来に生きる」子どもたちを育てるため、変化する社会に応じた力が求められています。だからこそ、広い視野と確かな情報をもって、自ら学びに向かう校長、そしてつながりを大切に、発信できる県連小でありたいと思ひます。



## 報 告

### 1 全連小第244回理事会及び第75回総会より

(村上ゆかり 会長)

- (1) 給特法の見直しに向けた動き
- (2) 勤務実態調査の公表

#### 【研修】

- (1) 講演「当面する初等教育の諸問題」  
文部科学省大臣官房審議官 安彦広斉 氏
  - ・次期教育振興基本計画のコンセプトは、持続可能な社会の担い手の育成と、日本社会に根差したウェルビーイングの向上。
- (2) 文部科学省等 行政説明
  - ・授業時数については、各学校に見合った授業時間数にしてほしい。計画の段階で、災害や学級閉鎖等の事態を過剰に意識して、大幅に時間数を増やす必要はない。標準時間数を下回っても法令違反ではない。
  - ・給特法については、論点を整理し中央教育審議会等で検討していく。来年の春を目安に一定の方向性を出す予定である。
  - ・いじめの認知件数については過去最高である。早期に対応して解消することが重要。
  - ・不登校児童生徒は、9年連続24万人以上の人数(小中合わせて)で過去最高。不登校対策強化のための「COCOLOプラン」を参考に、環境づくりに努めてほしい。

#### 【報告】

- ・7月11日に文科省、財務省、総務省に常任理事で要望を提出した。
- ・全連小75周年記念式典開催 記念誌の購入のお願い。

### 2 東北連小理事会・研修会より

(樋口潤一 幹事長)

- (1) 第63回東北連小山形大会について
  - ・アンケート集約されたものをもとに報告。
- (2) 第64回東北連小青森大会について
  - ・記念講演 講師：中路重之 氏(弘前大学大学院医学研究科社会医学講座特任教授)
  - ・分科会構成と各分科会の研究課題と視点について大きな変更点はなし。
- (3) 第65回東北連小秋田大会について
  - ・大会主題、副主題についての説明。
- (4) 分科会視点の割り当て見直しについて
  - ・令和10年度から開催県がすべての分科会の視点1を担当することに改定する。

### 3 県連小各専門委員会から

- (1) 対策委員会 (佐藤浩子 幹事)
  - ・第1回小中合同対策委員会議(5/8):「お願い」の重点事項を6項目に精選した。
  - ・各地区の現状を把握し、第2回対策委員会議で検討。
  - ・5月中に『提言』を会員にデータで発信した。
  - ・第2回小中合同対策委員会議(7/3):「お願い・手持ち資料」の文言確認と懇談会説明原稿を作成した。
  - ・経営懇談会(8/1):重点事項6項目について
  - ・「お願い」の提出(8/31)
- (2) 生徒指導委員会 (戸村浩二 理事)
  - ・第2回生徒指導委員会(8/3):アンケート調査結果の分析と考察。①親からの理不尽な要求、暴力行為・傷害、不登校についての件数が増加傾向



## 地区校長会訪問

### 学び合い高め合う校長会を目指して

#### 西村山地区校長会

西村山小学校長会は、寒河江市9校、河北町6校、西川町1校、朝日町3校、大江町2校、計21校の校長で組織し、各学校や市町校長会相互の連携を密にしながら課題を共有し、その解決に向けて校長自身の研修の充実や教職員の資質向上のための活動を行っている。

本会の事業としては、その時々教育課題について中央講師等から学ぶ「教育講演会」や、東北連小・県連小等の研究協議会での発表を視野に入れて組織する3つの部会での研究活動があるが、中学7校の校長を加えた「西村山校長会」としての事業にも力を入れているところである。

その中の一つ「学校運営研修会」は、学校運営に積極的に参画できるミドルリーダーの育成を目的に実施してきた。従前は40代前後のミドルリーダー及び管理職を目指す者が対象であったが、昨年度からは対象を30歳以上に広げ、これから主任等を担う中堅教員の育成を主眼としたグループも加えた。層が薄い30～40代の教職員が他校の同世代の教職員と学び合う貴重な機会となり、参加した若手教員は、現代的な教育課題への対応や教育法規の理解と運用等について積極的に学ぶ中で、学校経営への参画意欲を持つことができた。今後も、校長会として幅広い世代の教員の育成を目指すとともに、校長自らが互いに学び合い高め合う活動を大切にする校長会の活動を行ってまいりたい。

寒河江市立寒河江小学校 白林和夫

向にあること、②生徒指導に関するチームとしての力を維持・向上させていくための効果的な方策を、校長会として共有していくこと、③ICT活用・不登校児童生徒の支援のあり方・特別支援教育などについて考察した。

- (3) 研修委員会 (大沼清司 幹事)  
第2回研修委員会(7/20)WEB会議
- 第63回東北連小研究協議会山形大会のふりかえりと第78回県連小研究協議会(飽海地区主管)の進捗状況について
  - 東北連小各分科会の視点1を開催県が担当することへの変更を令和10年度から行うことについて第2回理事会において正式決定した。

## 協 議

### 1 第63回東北連小研究協議会山形大会の成果と課題について

(佐藤昌彦 実行委員長)

- 時期：適当 泊なし：妥当(宮城の事件を受け、児童登校日の開催を見直す意見少数)
- 開閉会等の行事：時間短縮(複数)、趣旨文や大会宣言文の全部読み上げは、長文ではあるが、ねらいを共有した上で会を運営することに意義がある。
- 緊急時の連絡体制：常に学校と連絡ができる体制を確保したいという要望があった。
- 祝辞の人数や来賓の多さ、山形県の来賓の数：検討→県大会を兼ねており、実情を反映した運営。検討するなら県大会の在り方を変える。
- 講演：高評価
- 分科会：発表内容は高評価(テーマは全国を受けて設定しており、変更は難しい)
- 運営面(記録用紙準備、席次提案等)で検討を要望

する意見があった。

- 対面形式による情報交換が図られ、多くの学びがあったことに高評価
- その他：業務軽減という視点でのデジタル化の導入について高評価

### 各理事より

- 各県の会長、理事の方々から、山形県の運営がとても良かったと感謝の言葉があった。
- 地区代表の発表を複数年継続して取り組むことを通して、校長会の活性化につながっている。
- 対面で開催することの良さを再確認した。
- 山形県として大事に残してきた点は、たとえ東北大会が重なっても、継続していく必要がある。
- 県全体でお迎えするという意識が現れていた大会であった。役割がなくとも、気持ちは一つにして行うことができた。
- 大会中の宮城県内での発生事案を受け、主催者側が電波が入りにくい会場であることのお知らせ、校長が会の合間に学校に連絡する体制の必要性を感じた。
- 管理職不在時の学校体制について見直し、学校経営に生かすことができた。
- 会場周辺の駐車場情報が事前に入手できればよかった。

### 2 令和6年度第78回県連小研究協議会について

(阿彦 淳 実行委員長)

- 主題：「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」は令和4年度米沢大会を踏襲
- 講師：富田 勝 氏(慶応義塾大学名誉教授、慶応義塾大学先端生命科学研究所前所長)

## “田川は一なり”で、共に進む!

### 田川地区校長会

今年度、田川小学校長会は、7名の先輩方がご退職、2名が行政へ他出し、新たに8名の新会員を迎え、鶴岡市26名、三川町4名、庄内町4名の計34名で活動している。人数的にバランスの偏りはあるが、事務局員を各市町から選出し、田川全体としての情報共有を図ることができるよう配慮している。また、田川中学校長会、飽海小学校長会とは年2回の連絡協議会を行い、連携を図っている。今年度は「研修活動の充実と資質の向上」を第一の重点に掲げ、様々な課題に対する研修を計画している。生徒指導上の課題解決を図る秋期研修会では、エリアソーシャルスクールワーカー、少年サポートセンター庄内を講師に研修予定である。また、コロナ禍でしばらく行っていなかった学力向上研修視察についても、天童の中部小と寺津小で特色ある取組やICT教育について学ばせていただく予定である。その他、小中校長による学力向上等合同研修会、庄内の小学校長が一堂に会する庄内小学校校長研修会が計画されており、学力向上、生徒指導等の各専門委員会を中心に研修を計画運営し、校長としての資質向上を目指している。また、当面する学校経営上の課題についても各市町の情報交換を密に、田川地区としての情報共有と連携を大事にしている。朝陽一小の校長室には「田川は一なり 団結強固 積極進取 勇往邁進」という昭和18年に揮毫された「田川教育振興目標」の書がある。コロナの難局を乗り越えられたのもこの精神があったからと今改めて感じている。これからも「田川は一なり」の精神のもと、「コロナ後の新しい田川の教育づくり」に向け運営方針を共有し、重点にしっかりと取り組み、34人が共に進んでいきたいと思う。

鶴岡市立朝陽第一小学校 小澤 敏一

## 理事研修会議より

〈テーマ〉 学校運営

### 「県連小生徒指導部アンケートを 活用した取組」について

**話題提供** 東村山地区校長会 戸村 浩二 理事  
(天童市立津山小学校)

#### 【話題提供の趣旨】

県連小生徒指導部にてアンケート調査を実施し分析、情報提供を行ってきた。また、令和元年度より、アンケートのまとめを年度前半に各地区の生徒指導委員に送付し、9月以降活用できるように改善してきた。しかしながら、コロナ禍により校長会開催が難しい時期があり各地区で活用が十分ではなかったという反省もある。

そこで、県連小理事研修会議で、アンケート調査のまとめを踏まえた各地区の活用状況等について情報交換をし、研修の場とする。

#### 【話題提供】

- (1) 東村山地区小学校長会議での取組  
アンケート結果を前もって送付し、会議においてグループで意見交換を行い、その後全体で話題を共有している。
- (2) 東村山地区小学校での取組  
教頭・生徒指導主任等へアンケートを回覧し、個別の対応に生かす。
- (3) 天童市小中学校校長会議での取組  
中学校区での研修を各中学校区で独自に行っている。各学校訪問したり、9年間を見通した連携のあり方などについて話し合いを行ったりしている。
- (4) 天童市立津山小学校の取組
  - ① 保護者との連携  
学校経営の土台の一つに「保護者との信頼関係」を掲げ、「我々は教育のプロ、保護者は子育てのプロ」として共に子どもを支えていく。
  - ② チームでの対応  
教務主任が窓口となり、相談会議・面談の計画を立てる。面談は複数で対応し、ホワイトボードを活用する。
  - ③ 外部機関との連携  
教育委員会、医療機関、学童保育所、市子育て支援課、警察署、児童相談所等と連携を図る。
  - ④ 自らくらしを創造する子どもをめざして
    - ・生徒指導提要の共有
    - ・子どもがくらしをつくる(学校のきまり等)
    - ・人間関係調整力を養う

#### 【各地区理事から】(抜粋)

##### 〈アンケート活用について〉

- ・アンケートに関して、事例を基に、対応方法などをお互い話し合ったり、話題提供の中に組み入れて話題にしたりしている。
- ・山形県のものより若干項目数を増やし、毎月集計をして行っている。その他に、うまく対応できた事例、対応に苦労した事例、それ以外で伝達を図りたい事例と、生徒指導上の問題予防のための取組として推進をしたいものを各校長が生徒指導担当へ報告している。
- ・地区の経営会議の中で担当校長より報告を受けている。市の校長会、生徒指導主任会の場でも検討し、自分の地区や市につなげながら参考にしている。地区では生徒指導情報を地区ごとに集めて具体的な事案や、効果のあった対応例について情報共有し、県のまとめを活用している。
- ・校長会議の中では毎回時間をとり、フリーの情報交換の時間をとっている。月ごとにテーマを決めて情報交換したり、講師を招いて研修をしたりしている。
- ・地区の校長会で、年4回のうち2回、地区の生徒指導委員が報告する時間を位置づけている。アンケートの結果などは、報告とともに、ポイントを絞って実践例などを共通確認している。
- ・アンケート活用研修会については、地区生徒指導担当校長からの要望により、1月の校長会の中で予定している。

##### 〈情報交換の中で話題になったこと〉

- ・外部専門機関と連携した研修会の開催について
- ・校長会による不登校、いじめに関する初期対応についてのパンフレット作成について
- ・不登校：各地区におけるフリースクールの状況と活用の実際、連携事例について
- ・いじめ：被害児童の保護者による加害児童、保護者に対する訴え等の事例について

##### 〈議長による総括〉

- ・いじめ・不登校とも、校内における「未然防止」と「危機対応」の2つの観点を両輪に、校長としての学校づくりを見つめていきたい。
- ・校長会として、県連小で取り組んでいるアンケートを継続していくとともに、フリースクールの位置づけや状況を勘案しながら、日々の指導、学校経営に生かせるようなものにしていきたい。

